

|       |  |      |        |
|-------|--|------|--------|
| 授業科目名 | 演劇入門   | 担当教員 | 平田　オリザ |
| 必修の区分 | 選択   |      |        |
| 単位数   | 2 単位   |      |        |
| 授業の方法 | 講義   |      |        |
| 開講年次  | 2 年 第 1 クォーター  |      |        |
| 講義内容  | <p>講義内容　本講座は、文化人類学的な演劇の起源、西洋演劇史、日本演劇史など、歴史的概観を縦軸に、現在の戯曲論と演出論、演技論、舞台制作論を横軸において、立体的に演劇の実践と演劇論の全体像をつかむ構成となっている。</p> <p>パフォーミングアーツを専門とする学生の入門という位置づけを鑑み、「人はなぜ演じるのか」「なぜ、人類は演劇を必要としてきたのか」といった根源的な問いかけから出発し、現状の世界演劇の俯瞰図、およびその体系を把握することを最終目標とする。</p> <p>また、特に、近代日本演劇史に重点を置き、主要な演出家の演出論と演技論の分析から、演劇を批評的に見る態度を習得させる。</p> |      |        |
| 到達目標  | <p>・受講した学生は、世界と日本の演劇史の基本的な知識を身につけ、その起源から現代に至る過程を系統立てて語る能力を身につける。</p> <p>・受講した学生は、観劇において、単なる表層的な感想を持つだけでなく、歴史的な位置づけによる分析が行えるようになる。</p> <p>・受講した学生は、グループワークを通じて、演劇について多角的に議論をする態度を身につける。</p> <p>・人類史における演劇の役割を理解する。</p>  |      |        |
| 授業計画  | <p>1. 演劇の起源</p> <p>世界と日本の演劇の起源について、その概観を学ぶ。</p> <p>並行して課題図書を紹介し、個人研究の課題を説明する。</p> <p>2. 西洋演劇史</p> <p>ギリシャ悲劇からシェイクスピア、チェーホフ、現代演劇に至るまでの概観を示し、グループワークに入る。</p> <p>3. グループ発表 1</p> <p>担当する演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>4. グループ発表 2</p> <p>担当する演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>5. 日本演劇史</p>                   |      |        |

|               |   |
|---------------|---|
|               | <p>歌舞伎、能、狂言、文楽と行った古典芸能から、近代日本演劇そして現代演劇へと至る過程を示し、グループワークに入る。</p> <p>6. グループ発表 1<br/>担当する日本の演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>7. グループ発表 2<br/>担当する日本の演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>8. 現代演劇論<br/>現状観劇可能な現代演劇の主な作家をとりあげ概要を把握しグループワークに入る。</p> <p>9. グループ発表 1<br/>担当する現代の演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>10. グループ発表 2<br/>担当する現代の演出家、劇作家について作品の概要と演劇観を発表する。</p> <p>11. 課題発表 1<br/>学期を通じて行ってきた個人研究の発表と討議</p> <p>12. 課題発表 2<br/>学期を通じて行ってきた個人研究の発表と討議</p> |
| 事前・事後<br>学習   | <p>学習各回、個人、グループ対象の課題が出されるので、次回の講義までに準備をしてくること。</p> <p>グループワークが多く取り入れられるので、事前事後に時間を調整し課題に取り組むこと。</p>   |
| テキスト          | 授業ごとに配布   |
| 参考文献          | 平田オリザ『演劇のことば』（岩波書店）   |
| 成績評価<br>の 基 準 | <p>グループワークでの相互評価 30%</p> <p>授業への発言・貢献 30%</p> <p>レポート 40%</p>   |

|                |   |
|----------------|---|
| 履修上の注意<br>履修要件 |   |
| 実践的教育          | 芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。 |
| 備考欄            |   |